

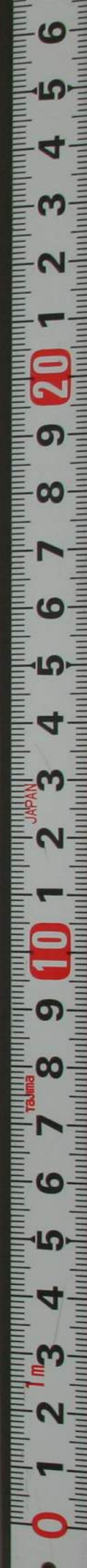


江都官論

戴壹

傳少納言方との比
 傳少納言
 水一斗の
 あり之のゆゑに構
 かなと丁年より極
 こむ
 梅子を入し
 い何れ
 され

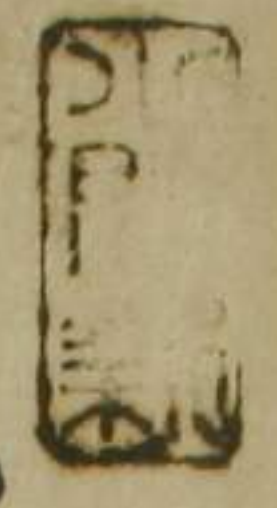
7保3
 3.200
 L



仁百十八番目

保 3
9.30

73



彦三



江戶官論秘鑑惣目録

卷之三

- 一 町人眼長帯（町人眼長帯）と云はる事
- 一 芝之車町牛町之車
- 附牛ノ教牛の婿（牛ノ教牛の婿）と云
- 一 浅草之松之間堂（浅草之松之間堂）遊（遊）鯉（鯉）
- 附津門之松之間堂（津門之松之間堂）権（権）雲（雲）并



弓師坊後 境内 久吉 為公 幸之
日弓師坊後 江戸 拂 幸
日 大少 石官 令 幸
一 本石 町 時 境 幸
一 西凡 門 後 幸

春之武

一 江戸 之 是 古 七 花 迄 幸 幸
一 榎 友 軒 也 幸 幸

日 明石 劫 幸 幸
後 氣 之 劫 幸 幸

日 村山 又 幸 幸 幸

相 侯 附 幸 幸

附 森 田 劫 幸 幸

附 森 田 劫 幸 幸

幸

附 幸 幸 幸

卷之九

一 御府内者樓部中寛永年

慶長年中在由能教ヶ所

附有徳と一河と

出と年

附有徳と一河と

由書付と年

附有徳と一河と

附有徳と一河と

名之由書付と年

卷之八

一 西園橋新方橋町字の支那

成と年

一 市名橋書付と年

作智と字信清と字と没収沙

子成と年

一 日鶴元祿九年（一六九八年）以重信之事
并元祿十三年（一七〇〇年）享保三年（一七二〇年）
以他信之事

一 割古橋此由山重信江行如史

并山收元山應永之事

附享保三年（一七二〇年）重信之事

一 山代橋新古橋其辨之代

山代橋之事

并山代橋由山辨臨門山所

人并山代橋由山辨臨門山所

附山代橋由山辨臨門山所

附山代橋由山辨臨門山所

附山代橋由山辨臨門山所

一 右期山代橋由山辨臨門山所

一 山代橋由山辨臨門山所

一 山代橋由山辨臨門山所

年 町奉行の修し
日 揚り度費制視し江督更
日 宰官を改坪あり
日 西平ちあり言石常力
大 公家をもして國人進致あり
日 常力支統の目公事修全
と ありし事

日 常力親族し修し令あり
下 常力修し事
日 常力高力し付常力助助
者 抱えし事
日 石名佐し常力修し事
日 石名佐し常力修し事
日 常力修し事
日 常力修し事

ありき

一 宰を多し人なりし中用宿

の書ありき

附宰を柳りき方の上を費

ありき

表をく

一 宰を以て思ひき方の上を改正

ありき

あり

附出役しき方の上を改正

一 師に因り人扶持を改正

ありき

一 湯の日の標記の上を改正

ありき

一 奉立を中修しき方の上を改正

ありき

附湯の地記ありき

一 河内田人 枝朽赤多
 出七廻の平右衛門 宇野
 丹波子 天子 始終 八支
 非人 以 杉吉 夫 上 事 多 實
 一 附田人 抱 師 多
 一 浅手 深 在 妻 中 師 八 事
 一 赤 柳 柳 公 上 師 判 物 多
 一 柿 老 妻 一 行 官 園 敷 之 名 支

一 園 康 一 沖 入 園 之 長 深 在 也
 一 沖 近 之 出 之 事 八 上 官 下
 一 仁 田 村 馬 方 也 初 梅 之 事
 一 沖 入 園 之 長 後 川 之 事 多
 一 澤 友 也 事 力 古 移 之 事
 一 田 人 之 子 女 一 沖 園 所 通 之 事
 一 沖 之 也 也 一 沖 之 也 也 沖 用 物 多

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)
附 湯田 取捨 (湯田 取捨)

卷之八

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 湯田 取捨 (湯田 取捨)

一 深々川界形

形包有たあつ中流

附味方と系ゆ合致水

流志款の首十二夜討取

且大夫保易あ部を助

流去ら部と改おの付支

指能と高ま治り

核後と改は

一 中塚築

一 高島市古里中流

長多村と古里中流

附山流并山被山能古

南

弟士川と海

一 地割長形

附市原と古里

山名助古妻 常夜以夜多又
 持包之吉也 地刻事役
 以作竹事
 水此河名 以事伐之 中夜更
 一 幸保年中 町人 惣事
 心

江坂官海秘燈全記拾卷初四條

江坂官海秘燈卷之三

田原

- 一 町人 昭美 吾 氏 乃 年
- 一 芝車 町 牛 町 年
- 附 牛 殺 牛 備 事
- 一 浅 系 之 拾 之 百 者 臨 鏡
- 附 深 川 之 拾 之 百 者 臨 鏡

三師坊後境能る古き公

事しと文

田坊後江戸拂事

田古中礼臨座官念事

カ少事

一牛石町後し江戸事

西丸以後ね得事

江都官御秘湯巻之

四人服欠之音事

丈夫也いけ給しり夫の

通洋とわくく奪海とまむり

そのまこま遊とあのしり

とむり是日木の娘あし得の金

事しりちまむる國なまこバ成る

尚尔其内社人寸法に及ぶ所
人にも今くそをせおひはれを
比先年よりたつ、河人刀と
抄の中佛一、詠之古事、
孔集、礼、方、よ、の、長、と、刀、さ、し、
よ、中、佛、一、の、中、三、年、已、
實、又、八、甲、年、三、月、四、人、刀
出、其、出、少、付、手、の、後、と、抄、中、

比、あ、る、ま、さ、ど、も、詠、之、出、ち、あ、
長、々、格、別、の、ど、一、あ、し、回、月
刀、御、免、之、内、社、人
け、詠、之、出、ち、あ、る、刀、帯、出、
ら、十、八、年、以、前、天、和、三、年、
去、月、の、序、止、に、
一、高、田、年、回、月、の、長、と、人、
若、刀、の、長、計、免、之、
信、知、の、地、

くあざり下るる事
くましく申す事
あまのたれに
の牛河内郡中
三年の月日
お平由多
石中
七たき

車河内下へ知澤
作付日卯年より
五年
支元
一牛殺
後

以て牛車連系りし中
是れお米中しし虫腹の成
ハミ成り合ふ七八おは馬
喰ひ成ハ成り津の智多
井名村馬川村系し列
後々多しちりし中
の長目下はみすすも
少れしと残車中し

牛車しし中
ちりしと
中し古牛車
そしち在り
牛車持仕り
一橋中
し知系
しと系

右ノ通シ社ノ以テ

享保五十年七月

中山町中云々
大島新前云々

浅原津川ニ於テ官署ニ修ス

附弓師坊後橋有久古妻

云々

并大由志ノ官舎令々前川云々

一享保十三年七月廿五日

名紙亦云々相々活川ノ書云々

久古妻ノと改修ノ明考ニ於テ云々

幸々一遊勝并云々云々

備々中付られ云々

云々中付られ云々

云々中付られ云々

云々中付られ云々

海川之拾二回堂中宿

海平之拾二回堂中宿

一 海平之拾二回堂中宿

海平之拾二回堂中宿

海平之拾二回堂中宿

海平之拾二回堂中宿

海平之拾二回堂中宿

海平之拾二回堂中宿

十九年壬午迄之石和川亦之白

お海申口田或拾年未の物後

此らの村も危お集市以而番成

此中幸しく此れ也 地り地右より

此之のあまあし、今もまをあ麻

し下し物し申年此物此中し

りまし川云成極ふまを今も

海しりねに 収甘山(ふし)者

仕り下お誂のまゝ成り申すに付
甲申十一月二日此評定は松平
仔細より松平に出雲守松平
右多色松平合石見守松平
尾崎守松平少佐松平のしり
堂守松平としり代松平
一しり下しり守松平守松平
仕り下お誂のまゝ成り申すに付

以辨り成り松平守松平
相成り松平守松平
成り支配仕り松平守松平

是

- 一 白根守松平 守松平
- 一 同 守松平 守松平
- 一 馬目守松平 守松平
- 一 同 守松平 守松平

右ノ通シ被テ教シ方ニ由ル也

一 多國ニ由リ又 板ノ

一 同 之 衆 又 宗 衆 授 授

一 日 之 衆 又 札 授

右ノ通シ被テ教シ方ニ由ル也

一 多國ニ由リ又 板ノ

一 同 之 衆 又 宗 衆 授 授

一 日 之 衆 又 札 授

右ノ通シ被テ教シ方ニ由ル也

年号月日

右ノ通シ被テ教シ方ニ由ル也

一 多國ニ由リ又 板ノ

一 同 之 衆 又 宗 衆 授 授

一 日 之 衆 又 札 授

一 神尾佑前左衛門右兵衛尉

内明徳三酉年十一月廿日

一 修復料根子百貫目取裁
一 湯田出雲守根 甲斐又左衛門
根付時延宝八申年七月九日
為伊波根付料 合方云給事
注

一 甲斐又左衛門源右衛門少左衛門
此時印之云云之云年一以重信方
一 根付此修復料事

一 少左衛門房右衛門 根付出雲守
此時元禄六年九月十日
修復料合方云給事

一 元禄十一年九月六日
拾之同奉親統仕付則川
以務津右衛門根付事

一回十月十三日抄前作事

山伐地へ至深川八幡原より
山伐地は以候は所候事之由候
本古木之小之者中柳柄物
之可候事毎口分候事之由
候事候事候事

一 元禄十二年卯二月廿七日
一 所入用之候事由大各候事
候事

左ノ通割合之由御裁仕

- 一 令五石 他二万石、二万九千石
- 一 令七石 他三万石、三万九千石
- 一 令拾石 他五万石、五万九千石
- 一 令廿石 他十萬石、十萬九千石
- 一 令三十石 他十五萬石、十五萬九千石
- 一 令四十石 他二十萬石、二十萬九千石
- 一 令五十石 他亦五萬石、廿九萬九千石

一 令方松也 但坊方名世方乃其五回名也

一 令八拾也 但只十名以下早九万五千名

一 令百也 但早一万名以下

即令取公之名字曰松也

石之也刻公即令御裁仕元保

以乙年十二月三十一日御裁仕元保

也

一 元保十六年十二月亦二日御裁仕元保

之也破損仕公府別之也

一 以後之御裁仕元保

家永七年七月十日御裁仕元保

多取はらふ也御裁仕元保

根子も百枚也御裁仕元保

仕元

一 西德之乙十二月亦二日御裁仕元保

之間堂親統仕公府御裁仕元保

多麻抄神三受多麻抄内徳と
は此綱中一歩の西徳と未年
九月十日中山出雲多麻と云
出子と先年一週長 河上殿
以我末子七百之拾五中
ま方提り下りる毎に有
了きゆらり好ゆら
一入用し今も先年一週長

出大名の方の節令御裁仕と徳
六申年六月と、此書作書
節令取合今之五言

相違一也此書作書
多し相違一也此書作書

享保十己年七月 寺書

中石町時一徳中
并西九山徳お借と年

高保の聖代たかたかの中なかつと美河原みがはらの事ことを
本ほんの目め十年じゅうねん六月ろくがつに大おほに
裁さい示しす中なかつ石河原いしがはらの事ことを
とめ油あぶらににてて獲とつときき収おさめめるる
むむのの中なかつ其そのをを一ひと書かき出だししりり付つ
りりのの少すくししのの事ことをを書かきかすす
事ことをを

中石河原の事
石河原の事

七しちのの私しりにに代しろにに先せん理り
蓮れん家かららしし者もの南なん河か原げんのの事こと
喝かく令れい合があありりししのの事ことをを書かきかすす
権けん兵べい衛ゑいのの事ことをを書かきかすす
のの事ことをを書かきかすす
家かのの事ことをを書かきかすす
権けん兵べい衛ゑいのの事ことをを書かきかすす
石河原の事

何るも長設成すお願合大久保
相物多様は為 伝付は伝へ時
後手被取と致し明へ六ツ言
六ツあ付お勤りし事

一 名徳院様ゆ代獲りて十二時
伝付新紙中獲出末の内未
津勢多事由は出る西沖丸
少獲は貸りた高しきを以

十二時相勤獲お事はは
獲西の丸丸と細てし事し

一 酉年八拾七年己未

大藏院伝付代 伝付は伝へ
伝付は伝へ時
西の丸は獲りては獲りて
了しんは伝付は伝へ時

一 中書江收付回十二日納
 一種播磨の書信之成紙之規
 分河内書行所分は收付りて
 以及人中の如く北の性種様
 之取々古書下物之御出
 之内々書信は收付りて
 家廷忠々古書之為不物者
 為及書々中回は方々今所

一 以次少壯の在る今所の種様
 古飛遠々元孫十三辰年七月
 帰日取亦書信々子取以書
 種様抄書々書信々他中
 年々一月抄書之及書信は種様
 乞分抄書々書信は種様
 一 室次三辰年抄書々書信は種様

日向側地成、新及、明、
付古金、赤、湯色、
以付新道、
者、
成、
間、
之、
た、
た、

一
少、
極、
今、
清、
本、
月、
七、
東、

一 禮儀抄後は山所大河中河橋
町に河敷今に山田拾河橋
社あり

享保十三年六月

後取 辻源七

職前より赤書あ付を披見のりて
源七のあわらむ中後山田町を
よむ長御なる後取の傍に

一 但中河橋後取の事
らむの儀中へんきらぬ
とあるは市所古事
しるされは市所古事
別らむと
はつてそらと命
しるれ
も石田の古付と抄あり

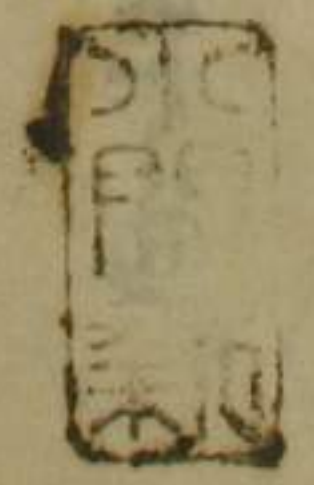
是

中河橋時後乃其山中河橋

横川を中一の橋向ふ内へ遷建
お勤戸氏へ内を遷すに成り
しり給年終る前中河内川
拂ふに成りて遷すに仕
て多し、後有人仕りて
社も修く千多し、事細
あおん方無事なるに
代下取傳りて千以後中

一 移りし時、後山内河内へ
十八年、山内河内へ
山内河内へ付、山内河内へ
ち、山内河内へ付、山内河内へ
山内河内へ付、山内河内へ
山内河内へ付、山内河内へ
山内河内へ付、山内河内へ

江都官論秘傳卷之三



江都官論秘傳卷之三



目錄

一 江戶之芝居七氣仙書信布下
 横發形也
 田明石如之部
 林山表
 勤澤所和

田村山又之部市村岡左馬
五郎附好左衛門 河城
夜と初めなる物
田森田助仙坂東又九郎
グキ

田ノ一ノ信口カモテ

江の官論秘鑑卷之貳

之芝岳臨禱赤七龍下

機發

江戸の海ひらけの海月之場
野島中ノ芝岳の地
芝岳の海ひらけの海月之場
芝岳の海ひらけの海月之場

保良の羊のしち新統をせ
しとともあつのちそ甘を
しちとままらるる人の
府元打あつしお後し新
よりハ鳥船と瓦あきよし書
昨七新船と仕らまたら
いさしらの花ちとお酒も
易く年一換らるるも

りる船一ちあつし換り入
も多くあつらるる花
しとつ新船と仕らまたら
りしとつ時の町をり大島
ち中山出雲ちちあつらるる
人評えりしといふも
まはあつたのちあつた
新あつちしちあつた

うきやうゆり古も移りやとく
まじりぬ(も)花ちりし替ひと
かきまうたりしをを花ひら
こあさばち方からぬ安ん
が下さし一記のみのハは花
より花傳止ら花付しとた
し花知んあつしとたこのま
りもましし花はしとてやうし

ちの心むひ書くまじりあに月
おの日ゆ用番のゆ花中
花あち花(ま)とらけり列
ゆ花のしと花うをまじり
し花はしは日十日花あち後
し花あちとゆ花ゆりし花
のゆ花ゆりしとまじりし
し花あちをまじりし

仕り他 結屋とわんらのそと川町の 慶安 カイン

四辛卯年 正月より 同日

まじのつけ候へり 諸

我々仕り日 古言 賢文 弄り

を地り 令入 儀 弄 弄 弄 弄 弄 弄

仕り 仕り 仕り 仕り 仕り 仕り

弄り 弄り 弄り 弄り 弄り 弄り

仕り 明徳 丁酉年 正月十八日

親統仕り 付 回 ぬ 月 弄 弄

弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄

連 刺 弄 弄 弄 弄 弄 弄

仕り 知 ぬ 弄 弄 弄 弄 弄 弄

中 名 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄

ニツ 相 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄

弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄

弄 弄 仕り 九月 弄 弄 弄 弄

新立

日付

年知

古く定宝六年

年と七年

初編 改中

改中

日付

改中

元年

十八年

日

日付

改中

元年

改中

三郎 芳之 徳政 百廿年
芝居 相續 仕来り 相多 願
古身 分 仕来り 廻 相 仕り
お勤 中 以 以

享保 十七年 六月

保町 相多 徳

幼三郎

市村 洞 相多 志 上 駕

度元

村山 又三郎

寛永 十一 庚午 二月 奇 相多 枝
芝居 相續 中 以 以 保町
お勤 中 以 以

度元

村山 又三郎

生國 泉 石 相多 保 相多 志 上 駕

一 大神院様

長有院様け代あむ 中城
りわ台 茂、多田百身又
お似仕又そ中時後御裁仕
長も中社に在り、中島如
方一も多、中島あしお
ち又と印より 羽た鳥 坪竹
長代と

一 右通中社の中島村の地

一 能登枝芝根元村山又中
河原と後初とささし
望月八代曆教九年二年
中島右平村御長
成行の忠の名代と改め
長くも中島後仕の中又中
取長根と長根と中島

形と之の中私先廻垣を又
九所牌二男又七と七中
中喜子の仕置四動係と相成
物と之仕置と之良すり又九印
ししと七中と係より度えお儀
そと後又七兄又七印牌又
左とお儀より別ら動係と
別らと之の又九印と之

于後ましと七牌福和と
又九所高留子と仕置と
多指動係と七中と
中いさめと之の動係
ししと七中と之成と
中

右七中と七と七中と
七と七中と七中と

とも先細末四又九部一お儀
中いゆ、伐、垣東又五印
社元お勤身あつ中いゆと
一本挽河と山田長吉又と
今らお芝居あつらりお抱の
役あつて家お新あつて
よのちお女は鶴とら
人々客を——名目もあつ

夜りさかり——お今とゆ
事なほ——しに清と伝長を
の城をゆた方おとらへお取
のまをゆり配あつてとら年
月をゆりゆりゆりゆりあ
ぬ山田長吉又家お新あ
——らとらとらとらとら
——とらとらとらとら

右通古付と所はあり

橋河字白

海軍由名

りし一傳

是

右傳の候は千年の昔に神の
心神の地は久しきに中敷
下所は少くは伝はるの後塚

所へ一誠傳の多をゆきあ
わき居はみまの処に言
の故下所み下りた傳の
中塚の地は伝はる前
みまの傳のりし一傳の
と中右の人塚丁に海
芝の地は知り千年の昔に
あつた是れは伝はる後にお止

